

アイヌ語地名を歩く

— 山田秀三の地名研究から —

◆学習用パネル◆

この冊子は、企画展「アイヌ語地名を歩く—山田秀三氏の地名研究から— 2012・夏 斜里・知床」の会場に展示している「学習用パネル」を冊子にしたものです。

も く じ

- 1 北海道の地名とアイヌ語地名
- 2 アイヌ語地名のいろいろ① 「ナイ」と「ペツ」
- 3 アイヌ語地名のいろいろ② 「ポロ」と「ポン」
- 4 アイヌ語地名のいろいろ③ 「ピラ」と「ソ」
- 5 小文字の「シ」 : アイヌ語の音について
- 6 アイヌ語地名のいろいろ④ 「フシコ」と「アシリ」
- 7 アイヌ語地名のいろいろ⑤ 「オタ」
- 8 アイヌ語地名のいろいろ⑥ 「ル」
- 9 同じ地名が各地にあること (その1)
- 10 同じ地名が各地にあること (その2)

◆ 1 北海道の地名とアイヌ語地名

人々が生活してきたところには、そこに暮らす人々が呼びならわしてきた、様々な土地の名前 —— 川の名や道の名、町や集落の名などがあります。

このような土地の名前のことを、**地名**といいます。

北海道の地名の多くは、アイヌ語に由来するものです。

アイヌ語に基づく地名があちこちに多く見られるのは、北海道に昔からアイヌ語を話す人々が暮らしてきたことの、何よりの証あかしでもあります。

現在の地名は、ほとんどが漢字で書かれており、アイヌ語に基づくものだと気付かれにくいものが増えてきています。

また、長い年月の間に、もともとの発音から変わってしまったり、意味や由来がわからなくなってしまうもの、全く異なる地名に変わったところなども、たくさんあります。

◆ 2 アイヌ語地名のいろいろ ①

「ナイ」と「ペツ」

北海道には、「登別」や「稚内」のように「ベツ」や「ナイ」の付く地名があちこちに見られます。

これらは、アイヌ語で川や沢を意味する「ペツ（pet）」や「ナイ（nay）」に関する地名です。

アイヌの人たちの昔の暮らしでは、川は、交通路としても食料などを得る場所としても大切な存在でした。



アイヌ語に由来する地名には、川の様子や特徴、暮らしとの関わりなどを表わす地名が多く残っています。

このように、アイヌ語の地名は、何らかの必要に応じて付けられたものであり、当時の人たちの暮らしが反映されています。

◆ 3 アイヌ語地名のいろいろ ②

「ポロ」と「ポン」

ポロ (poro) は、「大きい」「多い」、ポン (pon) は「小さい」「少ない」を意味します。

「ポロ」には「幌」など、「ポン」には「本」「奔」などの漢字をあてていることが多いようです。

ほろべつ
■例：幌別（登別市）

「ポロ・ペツ＝大きい・川」に由来すると言われていています。枝幸町や日高の浦河町などにも「幌別川」と名の付く川があります。

このような名前が付く川の場合、川の幅や長さ基準があるわけではなく、付近の他の川との比較でこのように呼ばれているのではないかと考えられています。

ポンとポロは、しばしば、対になって地名に付けられています。例えば、函館の北、七飯町と森町にまたがっている大沼と、その隣の小沼は、昔はそれぞれ、「ポロ・トー＝大きな湖」、「ポン・トー＝小さな・湖」と呼ばれていたと言われていています。

◆ 4 アイヌ語地名のいろいろ ③

「ピラ」と「ソ」

ピラ (pira) は崖、ソ (so) は滝や海岸の磯岩を意味します。

■例：^{ひらぎし}平岸（札幌市）

「ピラ・ケシ＝崖（の）・末端」に由来するとされています。

■例：^{そうべつ}壮瞥（壮瞥町）

洞爺湖の南東から流れ出た川は、そこから間もなくして滝になります。それで、この川が「ソ・ペツ＝滝・川」と呼ばれたと考えられています。



■例：^{そうや}宗谷（稚内市）

「ソー・ヤ＝磯岩（の）・岸」に由来するとされています。

ピラには、しばしば「平」という漢字が当てられています。「平」という字の地名でも、それがアイヌ語の「ピラ」に基づいているのであれば、平らな地形を意味しているとは限らないというわけです。

◆ 5 小文字の「シ」：アイヌ語の音について

◆ 4 のパネルに「ケシ」という言葉があります。

ここにある小さい「シ」は、日本語の「シ」(si)と違って、母音「i」が付かない、子音「s」だけの音です。

アイヌ語は、日本語とは異なる言葉ですから、日本語に慣れた人には発音が難しい音、日本語の漢字や仮名文字で表すのが難しい音もたくさんあります。

■ 聞き取りにくい発音の例

サプ sap 前に出る 「さっぱり」の「ぱり」を言わない発音です。

サツ sat 乾く 「サツと」の「と」を言わない発音です。

サク sak 夏 「サッカー」の「カー」を言わない発音です。

上の3つの例は、アイヌ語を全く知らない人にとっては、聞いても区別がつかないかもしれませんが、「サプ」と「サツ」と「サク」では、発音は似ていても意味は全く違ったものになります。

こうした音を小さなカタカナで書くのは、日本語にないアイヌ語の音をカナで書くときに行われている工夫の一例です。

◆ 6 アイヌ語地名のいろいろ④

「フシコ」と「アシリ」

フシコ (husko) は「古い」、アシリ (asir) は「新しい」という意味があります。

「ポン」「ポロ」と同じように、しばしば対で用いられます。川の流れが変わったときに、もとの流れのほうに「フシコ・ペツ＝古い・川」、新しくできた流れに「アシリ・ペツ＝新しい・川」と付けられる例があります。

■例 ^{ふしこ} 伏籠川 (札幌市東区)

札幌の豊平川は、江戸時代の洪水のときに流れが変わって、今のような流れになったと言われています。伏籠川は、この川の昔の流れの跡になっている川で、「フシコ・ペツ＝古い・川」に由来すると考えられています。

「ポン」と「ポロ」、「フシコ」と「アシリ」のように、対で覚えておくと、アイヌ語の地名を考えやすい言葉が、このほかにもいくつかあります。

「ペンケ」(川上/上) と「パンケ」(川下/下) もその一つで、音威子府村・咲来 (さっくる) 近くの「ペンケサックル川」「パンケサックル川」のように、大きな川に沿って「ペンケ〇〇〇」「パンケ〇〇〇」という地名が並んでいる例が見られます。

◆ 7 アイヌ語地名のいろいろ⑤

「オタ」

オタ（ota）には「砂」などの意味があり、地名では「砂浜」の意味で使われているものが多い見られます。

おたのしけ
■例 大楽毛（釧路市）

「オタ・ノシケ＝砂浜（の）・中央」に由来するとされています。砂浜が続く地域の中ほどあたりに見られる地名だとされています。

うたすつ
■例 歌棄（寿都町）

同じ地名が古平町や小樽市銭函などにあります。「オタ・スツ＝砂浜（の）・根もと」といった意味に由来するとされ、山田秀三氏によれば「砂浜を海沿いに歩いた端っこ」（「歌棄考」）のようなところを指すと考えられています。

うたのぼり
■例 歌登（枝幸町）

「オタ・ヌプリ＝砂（の）・山」に由来するとされています。

昔の地図では、北見幌別川の河口から少し内陸に入ったあたりにこの地名が書かれています。



◆ 8 アイヌ語地名のいろいろ⑥

「ル」

これまで紹介してきた言葉は、川や海など、土地や自然のようすに関するものでしたが、人々の暮らしに関わる言葉も多くあります。

例えば、「ル」には「道」などの意味があり、地名では、陸上の交通路を表す意味で用いられているものが多く見られます。

■例 留^る辺^{べし}薬^べ（北見市）

「ル・ペシ・ペ＝道（が）・～にそって下る・もの」という、沢沿いの比較的緩やかな道で峠を越えることができるような交通路を指した地名に由来すると考えられています。

知床半島でも、山脈をはさんで向かい合うように、斜里町側に「ルシャ川」、羅臼町側に「ルサ川」があります。これも「ル」の付く地名です。

◆ 9 同じ地名が各地にあること (その1)

同じような地形や場所には、同じ地名が付けられていることも珍しくありません。

■ 同じかたちの地名の例

- ・「ル・ペシ・ペ」(→学習用パネル8を参照)に由来するとされているところ。



◆ 10 同じ地名が各地にあること (その2)

■ 青森県にも「知床」が

「シレトコ」は、山田秀三氏によれば、「シリ・エトクまたはシリ・エトコ＝陸・（～の）・突端部」に由来するとされ、岬のような地形の突端の部分に付けられてた地名だということです。ここ知床半島の「シレトコ」は、古い記録を見ると、半島の突端、知床岬の付近がそう呼ばれていたようです。

同じような「シレトコ」は、他にも見られます。

例えば、礼文島の南や、胆振の白老町*にも「知床」があったとされます。青森県の下北半島にも、江戸時代の地図に、西南端のあたりに「シレトコザキ」と書かれている所があります。

「シレトコ」の例に限らず、東北地方の北部には、北海道のアイヌ語地名と同じような地形のところに、似た名前が付いている例がたくさんあります。これらの多くは、やはりアイヌ語に由来する地名であると考えられています。

山田秀三氏によれば、このような東北地方のアイヌ語地名は宮城県北部から秋田・山形の県境あたりを結ぶ線の北側に多く見られるとされています。

* 白老の知床は、昔は近くの駅名にもなっていましたが、今は「萩野」と呼ばれています。

◆アイヌ語地名について学ぶために◆

当研究センターでは、「ことば」「衣服」など、アイヌ文化についてテーマごとにわかりやすくまとめた小冊子（アイヌ文化紹介小冊子『ポン カンピソシ』）を発行しています。

その中で、地名をとりあげた巻があり、アイヌ語地名のあらまじや、学習のための参考文献などについて紹介しています。

■ 『ポン カンピソシ 9 地名』

ご希望の方は会場の職員にお申し出ください。

★部数に限りがあります。品切れのときはご容赦ください。

そのほかの主な参考文献

■ 山田秀三『北海道の地名』

（草風館 2000年 本体価格6,000円）

アイヌ語地名研究の第一人者である山田秀三氏が、自身の研究にもとづき、北海道の主な地名についてまとめた本です。

■ 山田秀三『アイヌ語地名の研究 山田秀三著作集』全4巻

（草風館 新装版1995年 本体価格各6,000円）

山田秀三氏の1982年ごろまでの主な著作や、新たに書き下ろした論文をまとめたものです。「北海道の川の名」「東北と北海道のアイヌ語地名考」などの著作が収録されています。